



SIMOT Research Center NEWSLETTER

No.25 2007.10



東京工業大学 インスティテューショナル技術経営学研究センターニューズレター

目次

	ページ
● トピック 相澤益男前学長ご退任にあたって	1
● イベント報告 東洋大学経営力創成研究センター第10回記念シンポジウム	2
国際問題分科会 10月例会	2
● 海外活動報告 東アジア工学アカデミー シンポジウム・定期協議出席	2
● コラム 無形資産投資におけるジレンマ	3
● 学生の目 国際的な視野を広げて 海外研修報告	3
● イベント予定	4
● 連絡先	4

トピック

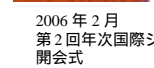
相澤益男前学長ご退任にあたって

2007年10月24日をもって、相澤益男学長が2001年10月から6年に亘り務められた東京工業大学学長を退任されました。相澤学長には2004年のSIMOTスタート以来、多大なるご支援をいただきました。総合科学技術会議の有識者議員を兼務された学長には、SIMOTが標榜するインスティテューショナル・イノベーションに、イノベーション25戦略会議のコンセプトである「技術・社会・人材によるイノベーション」を先取りした先見性を見出していただき、年次国際シンポジウムをはじめとする様々な機会において叱咤激励をいただき、SIMOTを導いていただきました。

今後は、日本の科学技術をリードされる総合科学技術会議の有識者議員として、なお一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようSIMOT一同心よりお願い申し上げます。



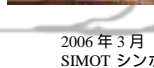
2007年2月
第3回年次国際シンポジウム
開会式



2006年2月
第2回年次国際シンポジウム
開会式



2005年8月
第3回インターCOE
シンポジウム 開会式



2006年3月
SIMOT シンボ基調講演者との
イノベーション討議にて



■ イベント報告 ■

東洋大学経営力創成研究センター第10回記念シンポジウム

(2007年10月20日 東洋大)



渡辺センター長は、10月20日、「新しい経営組織の創成と企業競争力」をテーマにした標記記念シンポジウムにおいて、「日本企業の競争力の創成と経営組織の変革－ハイブリッド技術経営」と題した基調講演を行いました。これは、SIMOTの考えに立脚して、「ポスト情報化に向けてのイノベーションは、新機能の持続的創成が鍵。それは、自前主義では不可能。外部資源の効果的活用が不可欠。独自の強みと学習効果の融合が決め手。内部技術を研鑽し、それと外部技術の共進化により可能」という考えを実証分析等をもとに示したものであり、多くの支持を得ました。



科学技術・研究開発の競争力:国際比較

(2007年10月22日 東工大 百年記念館)



研究・技術計画学会国際問題分科会10月例会では、科学技術振興機構 研究開発戦略センター シニアフェロー 丹羽邦彦氏に「科学技術・研究開発の競争力:国際比較」とのテーマでご講演いただきました。丹羽氏の所属する科学技術振興機構 (JST) は、日本の研究開発戦略の立案・戦略プロポーザルを通じ、研究立案者と研究者の橋渡しなどを行っています。同機構の研究成果は内閣府・文部科学省などへ提案され、イノベーション25をはじめとする多くの科学技術関連政策に活かされています。

今次の講演では、日・米・欧・中・韓を対象とした電子情報通信分野における科学技術・研究開発に関する国際比較調査のご紹介およびそこから得られた知見等についてお話いただきました。研究開発レベルの国際比較と注目開発動向の調査報告を基に、情報通信分野における日本の現状および日本が国として重視すべき重要研究開発テーマ等に関して参加者は意見を交換する機会を得ました。



■ 海外活動報告 ■

東アジア工学アカデミー シンポジウム・定期協議出席

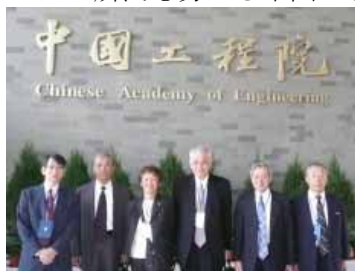
(2007年9月26日 - 29日 大連)

渡辺センター長は、9月27日・28日に中国北京で開催された日中韓を中核とする東アジア工学アカデミーの「イノベーション」をテーマとするシンポジウムに出席し、「Hybrid Management for Sustainable Innovation: Fusing East and West in an Innovation Ecosystem」と題する発表を行いました。これは、SIMOTの考えを下敷きに、日本の過去30年のイノベーションとインスティテューションとの共進ダイナミズムの盛衰を精査したものであり、折しも10月15日に第17回共産党大会で、胡錦濤総書記が、同様の問題意識に立った「持続的発展のための新たな科学的発展観」を示される直前のタイミングであったことから、大きな反響を呼びました。

センター長の提起は、グリーンシリコンバレーを標榜し、2300社(内外国企業600)が立地する大連ハイテクパークを基盤とした、Sustainable Innovationに向けての共同研究に発展しています。このため、センター長は、シンポジウムに続く定期協議に出席。その後、中国工学アカデミーメンバーとしてシンポジウムでのカウンタープレゼンテーションを行った、共同研究パートナーの大連理工大学の王教授と共に大連に向かい、29日に大連市科学技術局を交えた協力協議を行いました。王教授は、大連理工大学経営学大学院教授で、知識科学技術研究センター所長も努める中国における本分野の第1人者です。

同教授は、11月7日に来日して、東工大で協力協議を行うとともに研究・技術計画学会国際問題分科会で特別講演をされます(「イベント予定」参照)。

SIMOTの中原恒雄評価委員長も日本工学アカデミー会長として日本を代表してシンポジウム・協議をリードされました。



日本側出席者(中央:中原委員長)



大連理工大学での協力協議

コラム

無形資産投資におけるジレンマ

SIMOT ポスドク Pablo Gonzalo RAMIREZ



市場のグローバル化と新技術の急速な普及により、経済は変貌し、経営は新たな課題を突きつけられている。戦略の重心は、有形資産の効率的な管理から無形資産の効果的活用へシフトしている。

資源ベースの戦略論は、企業は極めて専門化された希少資産（無形資産）を蓄積・維持することで、優れた業績を達成できるとしている。しかしながら、固定資産における無形資産の割合が大きくなればなるほど、株価の不安定を招き易く（例えばドットコム企業）、無形資産に依存する企業の価値をも左右することが考えられる。これに関わるパラドクスとは、無形資産が競合優位の確立・維持のためのユニークな源泉である反面、その活用が遅れたり、また長期のペイバック期間のため価値が毀損したりすることである。

SIMOT の三次元のフレームワーク（歴史的俯瞰、国家戦略と社会経済システム、企業組織・文化）を使用して、無形資産にアプローチし、分析・評価することができる。無形資産は、イノベーション・サイクルを起動させる源泉であるのみならず、インスティテューション間の相互作用を惹起するものでもある。現在、私たちは産業および企業レベルで、なぜ（収益性や企業価値における）異質性が観察されるのかを調査している。その焦点は、a) 広範囲にわたる戦略資源と産業構造が、競合優位性、その持続性また市場価値に、いかなるインパクトを与えているのかを検証すること、b) 資源ベースの戦略論において予測される無形資産が与えるインパクトの有効性を確認すること、c) 無形財産に関して市場はどのようなシグナルを経営者に発信しているかを検証すること、の3つである。これらが、今私たちが求めている解であり、これを通じて競合優位の源泉、特に無形資産投資の活用に関して、理解がより深まるだろう。

学生の日

東京工業大学大学院社会理工学研究科

博士課程 1年 趙偉琳

国際的な視野を広げて 海外研修報告



2006年度に開設された東工大経営工学修士・博士一貫コースの一期生である私は、SIMOT が推進する学生支援活動とも連携して、海外研修、学会参加の機会を多数得ることができました。その一環として、この夏、6月～8月の3ヶ月間、国際応用システム分析研究所(IIASA)で行われた若手研究者夏期プログラム (Young Scientist Summer Program) に参加してきました。期待に胸を膨らませながら、世界21カ国から集まった様々な研究バックグラウンドをもった51名の若手研究者と共に大変有意義な夏をおくりました。

私が所属したのは Dynamic Systems チームで、自分の研究テーマであるソフトウェアアウトソーシングについて、ダイナミクスシステムの視点から分析をしてみました。チームでは毎週ゼミが開かれて、お互いに議論をし合っており、とても勉強になりました。更に、指導教員である Tarasiev 先生と定期的にディスカッションをして、良いアドバイスを頂きました。そして自分の研究に新たな思想を注入し、ポートフォリオ分析手法を用いて、アウトソーシング市場におけるリスク管理の分析に着手しました。この研究により、アウトソーシング市場のベンダー側のリスク管理の重要性を明らかにし、リスク回避の方法論を提案しようと考えています。

この3ヶ月間、たくさん的高レベルなセミナーやレクチャーが開かれ、様々な分野において、ホット 이슈、最新の研究動向、成果及び応用を紹介してくれました。その他、文化の交流や各種のソーシャルイベントも盛んでした。まるで毎日新しいものと出合ったように、刺激の多い日々の中、自信と誇りを学ぶとともに、国際的な視野を広げ、国際的な感覚を身につける事もできました。この研修で得た貴重な体験を土台として更に活かして、精進したいです。

このような海外研修を今後も教育の重要な柱の一つに位置づけ、更なる充実・発展をしていただければと思います。



COE 拠点紹介 - 工大祭オープンキャンパス (2007年10月27日(土)、28日(日) 東京工業大学 百年記念館)

東京工業大学文化祭(工大祭)参加イベントとして百年記念館ロビーで東工大COE拠点紹介のパネル展示が行われました。オープンキャンパス会場としても賑わいを見せた同会場にて、SIMOTも拠点のひとつとして展示を行うとともに、その関連企画として「インスティテューショナル技術経営学」の紹介をかねた出展企画「君はビル・ゲイツになれるか」を別途実施しました(詳細は11月号掲載予定)。

SIMOTのパネル

**最近の動き****● 海外出張**

- 梅室 10月29日～11月2日 台北(経営工学専攻との交流・協力関係についての議論・情報交換、国際大学院コースの募集に向けての広報活動)
- 渡辺 11月15日～19日 パース・オーストラリア(豪州工学アカデミー年次総会に日本工学アカデミーを代表して出席)
- 11月19日～23日 シンガポール(アジア生産性機構(APO)専門家会合出席)

イベント予定**経営情報学会・情報処理学会ソフトウェア工学研究会(SIGSE)連携シンポジウム**

日時 11月2日(金) 10:00～17:00
 場所 明治大学駿河台校舎 リバティタワー内リバティホール
 テーマ 「ITによるビジネス価値の向上」
 参加費 無料
 詳細は、<http://www.jasmin.jp/071011.pdf> をご参照ください。

研究・技術計画学会 国際問題分科会 11月例会

日時 11月7日(水) 18:00～21:00
 場所 東京工業大学 百年記念館 第1会議室
 テーマ 「産業における知識と学習 - アカデミー政府共同システムイノベーション」
 講師 大連理工大学経営学大学院教授 知識科学と技術研究センター 所長 王 众托 氏、院士
 (注) 院士は特にアカデミシャンに賦与される副大臣級のステータスで、経営学の分野では、中国でも卓越した業績をもつごく少数の研究者に限定されている。

● ● 発行 ● ●

東京工業大学 21世紀 COE プログラム
「インスティテューショナル技術経営学」 SIMOT 事務局

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 W9-51
 東京工業大学大学院社会理工学研究科経営工学専攻内
 西9号館 208B号室
 TEL: 03-5734-2936 FAX: 03-5734-2250
 Email: yoshino.m.ad@m.titech.ac.jp
 URL: <http://www.me.titech.ac.jp/coe/>
 編集者: 菊池 隆